

設置計画の概要

事項	記入欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	学部の学科の設置
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジンナラジョシダイガク 国立大学法人 奈良女子大学
フリガナ大学の名称	ナラジョシダイガク 奈良女子大学(Nara Women's University)
新設学部等において養成する人材像	<p>【学部全体】</p> <p>生活環境学部は、現在、食物栄養学科、生活健康・衣環境学科、住環境学科、生活文化学科の4学科で構成され、今回の改組の対象である「生活健康・衣環境学科」は、健康で快適かつ安全な人間生活と衣服の性能や衣生活のあり方を生活健康学及び衣環境学の立場から教育研究することを目的とした人材養成を行ってきた。近年、「健康」及び「衣環境」への社会的ニーズが拡大し、かつ本学でもそれぞれに関連する教育研究資源が文学部及び理学部にも存在することから、今回の改組により、「生活健康」を「心と身体の健康のフロンティア」に、「衣環境」を「情報技術を基盤とした衣環境のフロンティア」にするため、それぞれ「心身健康学科」及び「情報衣環境学科」の2学科に分離し、拡充強化する。</p> <p>① 養成する人材像</p> <p>従来の『生活の根幹である衣・食・住や家族の環境など生活を取り巻く様々な生活環境を教育研究の対象とし、生活の関わる諸問題を科学的に分析し、高度な教育・研究を進め、生活診断力や生活改善力に優れ、生活者の目で見えて社会をリードできる女性専門職業人を養成する』ことを踏襲しつつ、異分野の融合による革新的な生活技術を創出する人材、新しい文化を創造するフロンティア精神を有する人材、健康に関係する諸問題を心と身体の両面から取り組むことのできる人材を養成する。</p> <p>② 習得させる能力</p> <p>家政系から現在の生活環境科学系に受け継がれる衣・食・住や家族の環境などの生活に関係する学問を総合的に学習し、生活に関わる諸問題を分子レベルのミクロ的視点から社会レベルのマクロ的視点で科学的に分析・解決するための技術や技能を習得する。さらに、未知の課題を発見する能力並びにそれを解決できる実践力を習得させる。</p> <p>③ 卒業後の進路等</p> <p>従来、約3割が大学院等に進学し、就職者の約5割が衣食住に関係する製造業と卸・小売業であり、約2割が公務員であったが、新学科の設立により、衣料関係でもより情報産業と融合した企業や、心と身体の健康に関連する医療・福祉業や生活関連サービス業、情報通信関連企業への就職の割合が増加する。</p> <p>【生活環境学部 心身健康学科】</p> <p>① 養成する人材像</p> <p>心と身体の健康に関する系統的で幅広い知識と実践的応用力を科学的視点と総合的人間理解の視点から身につけ、心身の健康の維持増進を実践推進できる人材を養成する。生活健康学コースは、生活環境や生活習慣との関連から健康なライフスタイルの創造に貢献できる人材の養成、スポーツ健康科学コースは、幅広いスポーツ関連領域との関連からこころとからだの健康に関する今日的諸問題の発見及び解決に貢献できる人材の養成、臨床心理学コースは、心の諸問題と心身の健康との関連から人間存在を全体的な観点から捉えていく人間理解の方法を身につけ、援助者として他者及び自己理解力やコミュニケーション力を持つ人材の養成を重点的に行う。</p> <p>② 習得させる能力</p> <p>心と身体の健康とその文化的側面に関する知識を、生理学、心理学、体育学、スポーツ科学、生活環境学や人間工学などの視点で幅広く学び、これらを有機的に融合させ、健康について統合的な知識を身につける。科学的な知識に加えて総合的人間理解の能力及び心身をめぐる諸問題を発見し、解決できる能力を身につける。以上の学科共通の目的において、生活健康学コースは、衣食住に加え、運動、睡眠等生活環境や生活習慣との関連から心と身体の健康に関する科学的根拠のある実践応用ができる能力の習得を重点的に、スポーツ健康科学コースは、スポーツ科学や体育学の視点からこころとからだの健康に関する今日的諸問題の発見及び解決ができる能力の習得を重点的に、臨床心理学コースは、人間観、世界観、宇宙観を構築し、感受能力を磨き、人間理解の能力の習得を重点的に目指す。</p> <p>③ 卒業後の進路等</p> <p>心身の健康やスポーツビジネスに関わる企業、自治体、教育機関等。家庭科教員、保健体育科教員、健康運動指導士、カウンセラー、健康関連製品やプログラムの開発担当者、関連領域の大学院への進学</p>

<p>新設学部等において養成する人材像</p>	<p>【生活環境学部 情報衣環境学科】</p> <p>①養成する人材像 情報学と衣環境学の高水準基礎学力と先端科学技術の構想力により、革新的な生活技術を実現できる人材を養成する。衣環境学の基礎からの養成ルートでは、安全で快適な衣環境を構築できる能力とモバイル装置としての衣服を構想できる能力で社会に貢献できる人材を養成する。情報通信科学の基礎からの養成ルートでは、ライフ・コンピューティングに焦点を当て、人々の生活を改善する技術と能力で社会に貢献できる人材を養成するとともに、先端科学技術の本質を見極め、人々の生活に役立つ技術としての発想ができ、かつ新技術の持つ功罪を認識し修正する力を持つように教育する。</p> <p>②習得させる能力 ・衣環境学に関連する自然科学分野の高い水準の基礎学力 ・安全で快適な生活手段を設計し、持続可能社会へ貢献できる能力 ・ウェアラブルコンピュータなどのフロンティア技術に挑戦する能力 ・経済産業省の情報処理技術者試験に準拠した水準の情報学に関する基礎学力 ・日常生活の問題を情報処理の問題に翻訳しながら解決できる創造力と応用力 ・法律や倫理の視点から新技術の功罪を認識し表現できる能力</p> <p>③卒業後の進路等 衣環境学コースでは、繊維・洗剤・アパレル・流通に加えて福祉、家電・自動車・ロボット業界等。 生活情報通信科学コースでは、情報・電気・自動車等に加えて福祉、アミューズメント、ファッション業界等。</p>
<p>既設学部等において養成する人材像</p>	<p>生活環境学部は、食物栄養学科、生活健康・衣環境学科、住環境学科、生活文化学科の4学科で構成され、『生活の根幹である衣・食・住や家族の環境など生活を取り巻く様々な生活環境を教育研究の対象とし、生活の関わる諸問題を科学的に分析し、高度な教育・研究を進め、生活診断力や生活改善力に優れ、生活者の目で見えて社会をリードできる女性専門職業人を養成する』ことを目的とする。</p> <p>【生活環境学部 生活健康・衣環境学科 生活健康学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 健康で快適かつ安全な人間生活のあり方を生活環境等の視点から教育を行い、生活の様々な場面での健康の増進に貢献し、健康なライフスタイルを創造できる人材を養成する。</p> <p>② 習得させる能力 衣食住に関する基礎的な事柄だけでなく、生活現象を生理学、栄養学、保健学、人間工学などに基づき学際的な視野を持って研究し、自ら、生活に関わる問題点を発見し、科学的・客観的視野に立って評価した上で、問題解決のための方策を立案・実行できる能力を身につける。</p> <p>③ 卒業後の進路等 健康に関わる製品やプログラムの開発、及びプログラムの実践に関連する企業(製薬、食品、設備、衣服、スポーツ関連等)、教員(中学校・高等学校(家庭科)・(保健体育)・(保健))、自治体等</p> <p>【生活環境学部 生活健康・衣環境学科 衣環境学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 健康で快適かつ安全な衣服の性能や衣生活のあり方を衣環境学の視点から教育し、衣服産業界や教育界その他関連分野で活躍できる有為な人材を養成する。</p> <p>② 習得させる能力 ・衣環境学に関連する自然科学分野の高い水準の基礎学力 ・衣環境学に関する体系的専門知識を習得し、快適な衣環境の実現や維持に貢献できる能力 ・衣環境や衣生活に関する課題発見力、及びその課題を解決するための創造力</p> <p>③ 卒業後の進路等 繊維・洗剤・アパレル・流通販売等の企業等。</p>

既設学部等において
養成する人材像

【文学部 人間科学科 スポーツ科学コース】

① 養成する人材像

スポーツという言葉が象徴する幅広い領域において、からだという視点を通じた教育を行い、人間について改めて考えることにより、スポーツ、からだ、健康に関する諸問題の発見及びその解決に貢献できる人材を養成する。

② 習得させる能力

身体現象やスポーツ行動を科学的にとらえ、「からだ」や「健康」をキーワードに心身の調和やコミュニケーションにおけるからだの役割及びスポーツにまつわる諸問題について考える力。また、理論と実践の相互作用を通してしなやかな身体感覚を養い、幅広い分野で社会に貢献できる力を身につける。

③ 卒業後の進路等

教員(幼稚園、小学校、中学校・高等学校〔保健体育〕)、企業の研究所、自治体、一般企業等

【文学部 人間科学科 子ども臨床学コース】

① 養成する人材像

「子ども」をキーワードに、現代社会や人間関係の問題を考え、次世代自立支援に関する問題を実践的に学び、問題解決を実践できる能力を身につけた人材を養成する。

② 習得させる能力

「子ども」をキーワードに現代社会の成り立ちや人間関係、世代間伝達のあり方を文化、共生、支援の領域から考え、観察やインタビュー、調査を通して分析力を身につける。これらを通して、次世代養成に関する問題の解決を実践できる能力を身につける。

③ 卒業後の進路等

子どもに関わる企業(児童書、おもちゃ、服等)、教員(幼稚園、小学校)、児童福祉関係、各種心理士・カウンセラー、自治体等

【理学部 情報科学科】

① 養成する人材像

幅広い自然科学の素養に加えて情報科学の深い知識と高度な応用能力を持って社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。

② 習得させる能力

- ・情報科学に関する高度な知識をさまざまな問題に応用して解決する能力
- ・幅広い自然科学・数理学の素養に基づき学際的観点からさまざまな問題に取り組んで解決する能力
- ・専門知識を社会へ還元するコミュニケーション能力

③ 卒業後の進路等

電気・情報・自動車関連の企業等。

新設学部等において
取得可能な資格

【生活環境学部 心身健康学科 生活健康学コース】

・中学校・高等学校教諭一種免許状(家庭)

① 国家資格, ② 資格取得可能

③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要

・健康運動指導士

① 民間資格, ② 受験資格

③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 指定科目の履修で受験資格取得可能だが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。

【生活環境学部 心身健康学科 スポーツ健康科学コース】

・中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)

① 国家資格, ② 資格取得可能

③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要

・健康運動指導士

① 民間資格, ② 受験資格

③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 指定科目の履修で受験資格取得可能だが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。

【生活環境学部 心身健康学科 臨床心理学コース】

・認定心理士

① 民間資格, ② 資格取得可能

③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。

・健康運動指導士

① 民間資格, ② 受験資格

③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 指定科目の履修で受験資格取得可能だが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。

<p>新設学部等において 取得可能な資格</p>	<p>【生活環境学部 情報衣環境学科 衣環境学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要 ・学校図書館司書教諭・学芸員 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位以外に関連科目の履修が必要 <p>【生活環境学部 情報衣環境学科 生活情報通信科学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校教諭一種免許状（情報） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要 ・学校図書館司書教諭・学芸員 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位以外に関連科目の履修が必要
<p>既設学部等において 取得可能な資格</p>	<p>【生活環境学部 生活健康・衣環境学科 生活健康学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭、保健体育、保健） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要 ・健康運動指導士 <ul style="list-style-type: none"> ① 民間資格，② 受験資格 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか，指定科目の履修で受験資格取得可能だが，資格取得が卒業の必須条件ではない。 <p>【生活環境学部 生活健康・衣環境学科 衣環境学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要 ・学校図書館司書教諭・学芸員 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位以外に関連科目の履修が必要 <p>【文学部 人間科学科 スポーツ科学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要 ・小学校教諭一種免許状 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要 ・幼稚園教諭一種免許状 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要 ・健康運動指導士 <ul style="list-style-type: none"> ① 民間資格，② 受験資格 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか，指定科目の履修で受験資格取得可能だが，資格取得が卒業の必須条件ではない。 <p>【文学部 人間科学科 子ども臨床学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教諭一種免許状 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要 ・幼稚園教諭一種免許状 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要 ・認定心理士 <ul style="list-style-type: none"> ① 民間資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが，資格取得が卒業の必須条件ではない。

既設学部等において取得可能な資格		【理学部 情報科学科】										
		<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校教諭一種免許状（数学） ・高等学校教諭一種免許状（情報） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要 ・学校図書館司書教諭・学芸員 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位以外に関連科目の履修が必要 										
新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元		助教以上
	生活環境学部 [Faculty of Human Life and Environment]	心身健康学科 [Department of Health Sciences]	4	40	3年次（学部全体で編入学定員14、収容定員28で、右記学科別収容定員の外数。）	160	学士（生活健康科学）	家政関係、体育関係、文学関係	1年次 平成26年4月 3年次 平成28年4月	生活環境学部 生活健康・衣環境学科	5	3
										文学部 人間科学科	8	4
									その他	1	0	
									新規採用	5	2	
								計	19	9		
生活環境学部 [Faculty of Human Life and Environment]	情報衣環境学科 [Department of Computer Science and Clothing Environment]	4	35	3年次（学部全体で編入学定員14、収容定員28で、右記学科別収容定員の外数。）	140	学士（生活環境学）	家政関係、理学関係	1年次 平成26年4月 3年次 平成28年4月	生活環境学部 生活健康・衣環境学科	5	2	
									理学部情報科学科	4	1	
								その他	1	1		
								新規採用	3	2		
								計	13	6		
既設学部等の概要	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先		助教以上
	生活環境学部	生活健康・衣環境学科（廃止）	4	40	3年次（学部全体で編入学定員10、収容定員20で、右記学科別収容定員の外数）	160	学士（生活環境学）	家政関係	1年次 平成17年4月 3年次 平成19年4月	生活環境学部 心身健康学科	5	3
												生活環境学部 情報衣環境学科
									退職	3	1	
									計	13	6	
文学部	人間科学科	4	50	3年次（学部全体で編入学定員20、収容定員40で、右記学科別収容定員の外数）	200	学士（文学）	文学関係	1年次 平成20年4月 3年次 平成22年4月	生活環境学部 心身健康学科	8	4	
											文学部 人間科学科	12
								退職	2	2		
								計	22	10		
理学部	情報科学科（廃止）	4	40	3年次（学部全体で編入学定員10、収容定員20で、右記学科別収容定員の外数）	160	学士（理学）	理学関係	1年次 平成3年4月 3年次 平成10年4月	生活環境学部情報衣環境学科	5	2	
											理学部数物科学科	2
								理学部化学生命環境学科	7	2		
								その他	1	0		
								計	15	6		
【備考欄】												

教育課程等の概要(事前伺い)

生活環境学部 心身健康学科

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通	生活環境学原論	1後	2			○									兼1	
	児童学	2前		2		○									兼1	
	家庭機械・家庭電気・情報処理	1後		2		○									兼1	
	ジェンダー文化論	2前		2		○									兼1	
	小計(4科目)	—	2	6	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—
学科必修	心身健康学概論Ⅰ	1前	2			○			5	3		1				オムニバス
	心身健康学概論Ⅱ	1前	2			○			4	4		2				オムニバス
	女性健康論	1後	2			○			1							
	小計(3科目)	—	6	0	0	—			9	7	0	3	0	0	0	—
学科専門基礎科目 (総合選択科目)	生活健康学概論	1後		2		○			3	2						健・心 オムニバス
	衛生・公衆衛生学	2後		2		○									兼1	健・心
	生活内科学	2前		2		○			1							健
	高齢者生活環境論	2後		2		○				1						健
	人体生理学	1前		2		○			1							健・スポ
	スポーツ生理学	1後		2		○				1						健・スポ
	人体解剖学	2前		2		○									兼1	健・スポ
	運動医学論	2前集		2		○									兼1	健・スポ
	環境生理学	2後		2		○				1						健・スポ
	スポーツバイオメカニクス	1後		2		○			1							スポ
	体育・スポーツ事故論	1前		2		○			1							スポ
	生活と生涯スポーツ論	1前		2		○				1						スポ
	シーズンスポーツ実習・冬	1後		1				○	2	2						スポ
	認知神経科学論	1後		2		○				1						スポ・心
	身体表現学	2前		2		○			1							スポ・心
	生活行動変容論演習	2前		2			○			1						スポ・心
	家族心理学	2前		2		○									兼1	心
	犯罪心理学	2前		2		○				1						心
	教育臨床心理学	2後		2		○			1							心
	発達臨床心理学	2後		2		○				1						心
	小計(20科目)	—	0	39	0	—			9	7	0	0	0	0	兼4	—
生活健康学 コース 学科専門応用科目	食物科学概論	1前		2		○									兼6	オムニバス
	住環境学概論	1前		2		○									兼7	オムニバス
	食健康論	2前		2		○									兼1	
	育児学	2前		2		○									兼1	
	自律神経科学	3前		2		○									兼1	健・必
	栄養生理学	3後		2		○									兼1	
	被服衛生学	3前		2		○				1						
	被服生理学	3後		2		○				1						健・必
	生活行動科学	3前		2		○			1							健・必
	生活保健学	3前		2		○			1							健・必
	食環境論	3後		2		○								兼1		健・必
	環境人間工学	3前		2		○				1						健・必
	生活健康学基礎実験	2後		2				○		1					兼1	健#
	環境人間工学実習	3後		2				○		1						健#
	栄養学実験	3後		2				○	1			1				健#
	調理学実習	1前		1				○						兼1		健
	ストレスの科学実習	2後		2				○	1			1				健#
	人体生理学実習	2後		2				○		1		1				健#
	人体計測実習	3前		2				○							兼1	健#
小計(19科目)	—	0	37	0	—			4	2	0	1	0	0	兼17	—	

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性

人々が豊かな生活を営む為には、健康であることが基本であり、誰もが健康な生活を送ることを願っている。それゆえ、人々の健康に対する関心は極めて高い。心身の健康について、社会生活を含めた生活環境、運動習慣を含む生活習慣との関連を、幅広い分野から総合的に教育・研究を行う事が心身健康学科の目的である。

新学科の前身である「生活健康・衣環境学科」は、健康で快適かつ安全な人間生活と衣服の性能や衣生活のあり方を生活健康学及び衣環境学の立場から教育研究することを目的としてきたが、近年、「健康」及び「衣環境」への社会的ニーズが拡大し、かつ本学でもそれぞれに関連する教育研究資源が文学部及び理学部にも存在することから、今回の改組により、「生活健康」を「心と身体の健康のフロンティア」に、「衣環境」を「情報技術を基盤とした衣環境のフロンティア」にするため、それぞれ「心身健康学科」及び「情報衣環境学科」の2学科に分離し、拡充強化する。

実際に、生活健康学専攻の推薦入試では、比較的、「食」に興味を有する受験生が多くを占めていたが、最近では「ストレス」や「睡眠」といった心に関係する内容に興味を有する受験生が増加している傾向がある。また、平成20年度から健康運動指導士の認定校となったこともあり、トップアスリートではなく、健康のための運動に興味を有する学生も増加しつつある。この傾向は、受験生の志望理由からだけでなく、本学が年2回実施するオープンキャンパスにおける高校生との対話からも同様に窺い知ることができた。

近年、多くの大学で「健康」を冠とする学部学科が多く設置されたが、それぞれの前身の学部や学科の特徴もあり、体育スポーツ関係の「身体の健康」、心理学関係の「心の健康」と、心と身体が独立して「健康」に関する教育研究を提供している。しかし、健康に関する興味は、「こころ」と「からだ」の両面からあり、日常生活とも関係づけることによって、より統合的な健康感を構築することができる。

心身健康学科への統合における核となる生活環境学部の生活健康学専攻は、予防医学の視点から、衣食住はもとより、運動や睡眠などの日常生活を中心とした「健康」について教育研究するというユニークなプログラムを提供してきた。生活環境学部において、文学部に設置されていたスポーツ科学コースと子ども臨床コースの一部が生活環境学部に移動し、「心身の健康」をキーワードに臨床心理学コースを含む心身健康学科を設置する事により、これまでの家政学・生活科学の枠組みを超えて、生活と心身の健康をキーワードとし、身近な生活環境、社会環境、生活習慣と心身の健康との関連に関する幅広い知識と健康の維持増進の実践力を持った人材を育成することが可能となる。

II 教育課程編成の考え方・特色

(1) 編成・立案の基本方針について

①心身健康学科では、心と身体の健康に関する知識を、生理学、心理学、体育学、スポーツ科学、生活環境学や人間工学等の視点で幅広く学び、これらを有機的に融合させ、健康について統合的な知識を身につけた人材を育成するため、入学者選抜ではコースを分けずに一括募集する。1・2年次で幅広く心と身体の健康に関する知識を学び、3年次に3つの履修コース（生活健康学コース、スポーツ健康科学コース、臨床心理学コース）に所属する。

②心と身体の健康に関する内容を幅広く学習するために、専門群を基礎と応用に分類し、学科専門基礎科目群において3つの分野（生活健康学、スポーツ健康科学、臨床心理学：備考欄に、それぞれ順に、健、スポ、心、と表記）の科目群を設置し、それぞれの分野の特徴を学習するとともに、それぞれの分野の学習内容が有機的に連動するようにブリッジ科目（備考欄に健・心、健・スポ、スポ・心、と表記）を設置する。学科専門応用科目群では、それぞれのコースの専門知識を身につけさせるため、コースの特色のある専門科目を設置する。

③心身健康学科は文理融合型の学科であること、さらに学生の自主性・自立性を育成することを目的として、学科専門基礎科目群において、自らの意思で学習内容を選択できる機会を提供する。また、入試が文理融合型であるために、学生の得手不得手を配慮した履修形式とする一方で、これまで苦手とする科目にチャレンジする選択肢を有することは、学生の潜在的可能性を开花させる機会となる。

④学科専門基礎科目群では、3つの分野からそれぞれ8単位以上、合計30単位を選択必修として修得する。備考欄に健・心、健・スポ、スポ・心、と表記する科目は、2つの分野のブリッジ科目とし、いずれかの分野の科目として計上することができる。また、情報衣環境学科で開講される衣環境学概論、被服学実習Ⅰ、被服学実習Ⅱ、生活経済経営学は生活健康学分野科目、家族関係学は生活健康学分野と臨床心理学分野のブリッジ科目として修得できる。

⑤コース分けされる2年次終了時までには、学生が自身の適性を判断することができるように、一部の学科専門応用科目群の科目は2年次までに履修できるように配置する。また、講義だけでなく演習、実習も幅広く履修できるように配置する。

⑥3年次までに自分の適性に合致したコースに進み、より専門的な科目を履修する。さらに、学科専門応用科目群においては、生活健康学コースでは中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）が、スポーツ健康科学コースでは中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）が取得できる科目が配置されている。

(2) 特色について

上記方針による教育課程においては、

① 1・2年次において、本学科の概論から学科の方向性を学習するとともに、学部のバックグラウンドである生活及びジェンダーに関する講義科目を履修し、生活環境学の基幹部分を学習する。学部共通科目から2科目を選択必修とし、学科必修科目3科目を修得するとともに、学科専門基礎科目、生活健康学コースの学科専門応用科目、及び情報衣環境学科に設置される概論科目（生活健康学概論、食物科学概論、住環境学概論、衣環境学概論）を履修することを推奨する。これらの科目は、生活に関わる専門に裏打ちされた幅広い知識を有する人材を育成するため、個々の分野を専門的かつ包括的に学ぶオムニバス形式とする。

② 学科専門基礎科目群では、科目は3つの分野（生活健康学、スポーツ健康科学、臨床心理学：備考欄に、それぞれ順に、健、スポ、心、と表記）に分類され、2つの分野に跨る科目をブリッジ科目（備考欄に健・心、健・スポ、スポ・心、と表記）とする。学科専門基礎科目群の3つの分野からそれぞれ少なくとも8単位履修すること（合計30単位以上）によって、心と身体の健康を学習する上でその基礎となる科目を広く履修する。なお、ブリッジ科目はいずれかの分野の科目として計上する。加えて、各コースが専門応用科目群に配置するが、2年次までに履修することのできる科目を履修し、3年次のコース配属先への適性を総合的に判断する。

③ 3年次以降は、基礎的な専門科目と高度な内容を含む発展的科目を履修する。また、カリキュラムには、より専門的な演習と実験・実習を組み込み、講義では得られない応用力、実践力を身につけられるように配慮する。学科専門応用科目群では、各コースが指定する必修科目の講義（6科目）以外に、生活健康学コースはコース内の#をつけた実験・実習科目から4科目、スポーツ健康科学コースはコース内の#をつけた演習科目から4科目、臨床心理学コースはコース内の#をつけた2科目と他コース内の#をつけた科目の中から2科目（合計4科目）を履修する。

④ 4年次には、卒業研究を通じて自ら課題に取り組み、問題解決における実践力、応用力を養う。

⑤ 1・2年次においては多彩な選択必修科目によって、自主性・自立性を育て、4年次には複数教員による個別指導も含め、きめ細やかな指導によってコースを卒業する学生の質を保証する。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学部・学科共通科目から10単位、学科専門基礎科目群から30単位、学科専門応用科目群から40単位修得し、教養教育科目（30単位）と合計して124単位以上修得すること。学科専門応用科目群は各コースで必修指定が異なる（備考欄：健（生活健康学コース）、心（臨床心理学コース）、スポ（スポーツ健康科学コース）、必（各コース必修科目））。 （履修科目の登録の上限：年間48単位）	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)

生活環境学部 情報衣環境学科

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考 (#はコースで定める必修科目)			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学部 専門 科目 共通	生活環境学原論	1後	2			○									兼1		
	児童学	2後		2		○									兼1		
	家庭機械・家庭電気・情報処理	1後		2		○									兼1		
	ジェンダー文化論	2前		2		○									兼1		
	小計(4科目)	—	2	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼4		
学科 共通 専門 科目	A群	情報衣環境学概論	1前	2		○			6	1	1	1			兼1	オムニバス 集中	
	応用数学Ⅰ(微分積分学)	1前		2		○					1						
	応用数学Ⅱ(線型代数学)	1前		2		○			1								
	形態情報論	2前	2			○			1								
	図学	2後		2		○									兼1		
	マーケティング論	2後		2		○									兼1		
	ウェアラブルインターフェースデザイン論	3前	2			○					1						
	創造学	3後		2		○									兼1		
	B群	生活と情報倫理	1前		2		○			1							オムニバス
	情報学概論	1後	2			○			3								
	情報セキュリティと法務	1後	2			○			1								
	生活と統計学	1後		2		○									兼1		
	情報と職業	2前		2		○			1								
	経営工学	3前		2		○			1								
	失敗学	3後		2		○									兼1		
小計(15科目)	—	10	20	0	—	—	—	6	1	1	1	0	兼5				
衣環境学 コース 専門 科目	専門基礎科目	衣環境学概論	1前		2		○		3	1	1	1			#	オムニバス	
	被服学実習Ⅰ	1前		1											兼		
	被服学実習Ⅱ	1後		1											兼		
	家族関係学	2前		2		○									兼		
	被服衛生学	3前		2		○									兼		
	生活経済経営学	2前		2		○									兼		
	育児学	2前		2		○									兼		
	衣環境管理学	2前		2		○			1						#		
	生活と感覚計測論	2後		2		○					1				#		
	アパレル工学	2前		2		○					1				#		
	生活界面化学	2後		2		○					1				#		
	衣環境学実験Ⅰ(物理)	2後		2				○	1						#		
	衣環境学実験Ⅱ(化学)	2前		2				○	1						#		
	衣環境学デッサントレーニング	2前		2				○							兼1		
	アパレルデザイン実習	2後		2				○	1						#		
	衣環境造形学	2前		2		○									兼1		
	衣環境造形学実習	2後		2				○							兼1		
	専門応用科目	高分子材料学	3前		2		○			1							#
	繊維状材料性能論	3後		2		○			1								
	生活材料物性学	3後		2		○				1							
衣環境素材学	3前		2		○			1									
洗浄科学	3前		2		○				1								
衣環境学実験Ⅲ(物理)	3前		2				○		1								
衣環境学実験Ⅳ(化学)	3後		2				○		1								
生活感性工学	3前		2		○			1									
デザイン情報論	3後		2		○					1							
ウェアラブル情報デザイン実習	3前		2				○			1							
論文講読演習	3前		2				○				1						
繊維材料化学	3後		2		○			1			1			#			
小計(29科目)	—	0	56	0	—	—	—	3	2	1	1	0	兼2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考 (#はコースで定める必修科目)		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
卒業研究に関する科目	衣環境学演習Ⅰ	3後		2			○		3	2	1	1		#		
	衣環境学演習Ⅱ	4前		2			○		3	2	1	1		#		
	卒業研究Ⅰ	4前		6			○		3	2	1	1		#	※実験・実習	
	卒業研究Ⅱ	4後		6			○		3	2	1	1		#	※実験・実習	
	小計(4科目)	—	0	16	0		—		3	2	1	1	0	0	—	
生活情報通信科学コース 専門基礎科目 専門応用科目	プログラミング言語1	1前		2		○				1				#		
	プログラミング言語演習	1前		2			○			1				#		
	プログラミング言語2	2前		2		○					1			#	※演習	
	離散数学	1後		2		○				1						
	情報処理技術1	1前		2		○			1	2				#	オムニバス	
	情報処理技術2	1後		2		○			2		1				オムニバス	
	データベース論	1後		2		○					1					
	データベース演習	1後		2			○				1					
	アルゴリズムとデータ構造	1後		2		○		○			1				#	
	論理回路論	2前		2		○				1					#	
	計算機アーキテクチャ論	2後		2		○			1						#	
	情報理論	2前		2		○			1		1				#	
	計算機ネットワーク	2後		2		○			1						#	※演習
	計算機実験1	2前		2				○	1	2					#	オムニバス
	計算機実験2	2後		2				○	2		1				#	オムニバス
	ソフトウェア工学概論	2前		2		○			1							
	ヒューマンインターフェース概論	2後		2		○									兼1	
	情報社会学	2前		2		○									兼1	
	プロジェクト管理とシステム監査	3前		2		○			1							
	言語処理系論	3前		2		○				1						
	オペレーティングシステム論	3前		2		○			1							※演習
	パターン認識	3前		2		○			1							
	マルチメディア情報工学	3前		2		○			1							※演習
	数理論理学	3後		2		○				1						
	人工知能	2後		2		○			1							
	グラフ理論	2後		2		○				1					兼1	
	シミュレーション科学	3後		2		○										
	数理モデリング	3後		2		○									兼2	
	数値解析	3・4前		2		○									兼1	
	数式処理論	3・4前		2		○									兼1	
小計(30科目)	—	0	60	0		—		3	2	1	0	0	兼6	—		
卒業研究に関する科目	卒業研究Ⅰ	3前		5			○		3	2	1				※実験・実習	
	卒業研究Ⅱ	3後		5			○		3	2	1				※実験・実習	
	卒業研究Ⅲ	4前		5			○		3	2	1			#	※実験・実習	
	卒業研究Ⅳ	4後		5			○		3	2	1			#	※実験・実習	
	小計(4科目)	—	0	20	0		—		3	2	1	0	0	0	—	
合計(86科目)		—	12	178	0		—		6	4	2	1	0	兼17	—	
学位又は称号	学士(生活環境学)		学位又は学科の分野				家政関係、理学関係									

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性

現在の少子高齢化した日本では、情報通信科学を生活手段に応用することが生活のレベルを維持し安全で安心な生活を営むために必須かつ喫緊の課題となっている。例えば、栄養管理をする知的な冷蔵庫、節電を自動化するスマートな住まい、健康診断をする衣服、子供の安全を守る衣服、高齢者の見守りをする衣服などの情報通信技術に応用した生活情報通信商品の開発を行うことは実現可能なテーマとなっているが、実際に生活者の視点による生活者が満足する製品設計を行うための教育は実現していない。これらの商品開発を可能にする人材を育成できれば、新産業の創設、女性人材の社会進出など国家レベルのニーズに応えることになる。

さらに、日本学術会議では新しい設計科学という用語を「社会のための科学」とし、理学の概念である「科学のための科学」と同等の地位を与え推進すべきであると提言している。設計科学は時には相反する価値を調整しながら社会に役立つ製品を開発していく方法論である。理学に代表される科学のための科学を認識科学と呼び、認識科学に裏打ちされた設計科学という学問体系の再構築を求めている。女子の最高教育機関の伝統を有する本学において、理学教育と生活環境学教育の実績を踏まえ、積極的に設計科学を育成する責務があると考えた。

本学においては、認識科学は理学部で教育され、設計科学は生活者の視点を重視する生活環境学部の守備範囲である。真に設計科学を育成するためには、学部を越えた大胆な再編が必要である。少子高齢化社会での情報通信科学の生活の場への応用を構想するとき、理学部情報科学科の数理情報分野と生活環境学部生活健康・衣環境学科の衣環境学専攻との再編が最適な組み合わせである。

これまで生活健康・衣環境学科衣環境学専攻では、布の風合いの客観化で世界的に著名な研究を行った実績がある。この研究は、伝統的に感覚用語で表現されてきた布の性質を物理学の言葉で表現しなおしたもので、まさに設計科学の先駆けである。また、これに続いて衣服シミュレーションやウェアラブルコンピュータで先導的な研究を行ってきたが、これらは情報科学と衣服学のコラボレーションによって達成された成果である。

新産業の創設、女性人材の社会進出など国家レベルのニーズに応えるとともに、認識科学に裏打ちされた設計科学という学問体系の再構築を図るため、生活環境学部情報衣環境学科を設置し、学科内に衣環境学コースと生活情報通信科学コースを設置する。

現行の理学部情報科学科は、理学と情報科学の融合を理念として教育研究を展開してきたが、現在の理学においてコンピュータを利用するのは常識となり、学科の教育研究の理念をサイエンティフィック・コンピューティングからライフ・コンピューティングへ修正・強化する必要が生じてきた。一方、現行の生活環境学部生活健康・衣環境学科衣環境学専攻は、健康で快適かつ安全な衣服の性能を伝統的な衣服学の視点から教育研究を展開してきたが、衣服そのものをコンピュータ化するウェアラブル技術まで広範囲な教育研究が必要になり、伝統的衣服学を修正・強化する必要が生じてきた。両学科は従来から数理を重視しており、新設学科を作ることの教学上のメリットも大きい。従来独立に開設していた応用数学や統計学を共通で開設するので、設計科学に必要な創造学と失敗学を新たに導入することができる。

このような学科設置趣旨のもと、生活情報通信科学コースでは、これまでの情報科学の基礎部分は残しつつ、情報科学の基礎から多彩な実践的生活応用にわたる教育を推進する。ここでは、知の営みとしての情報に加えて、情報倫理やセキュリティ等の社会と生活にとって考慮すべき側面をカバーしながら、社会と生活のための情報通信技術を創造・発信できる人材を育成する。衣環境学コースでは、これまでの衣服学の基礎部分は残しつつ、ウェアラブルコンピュータ、ヒューマンインターフェース等、衣環境学のフロンティアをも教育する。本コースでは、物質科学（繊維・高分子）、情報科学（ウェアラブル）、人文・社会科学（ファッション）の持つ個別の法則を理解し、社会と生活のための新しい衣服を創造・発信できる人材を育成する。これらの2つのコースは相補的であり、生活情報通信科学コースでは、ライフ・コンピューティングの具体例としてウェアラブルインターフェースを教育する。一方、衣環境学コースでは物質と比較して人工性が高く恣意性を持つ情報技術に必要な倫理性やセキュリティを教育する。そして、学問領域を越えた発想を得ること及び自由な発想がもたらす失敗のパターンを教育し、社会のための科学を理解し実践できる人材を育成する。

II 教育課程編成の考え方・特色

(1) 編成・立案の基本方針について

- ①社会のための科学を理解し、生活のための新しい技術を創造できる人材を育成するために必要な基礎から実践までのカリキュラムを準備する。
- ②部分と全体を俯瞰するモデルである応用数学・統計学及びシステムとして俯瞰する創造学と失敗学を用意する。なお、創造学と失敗学は生活環境学部全体での受講者を想定し、学部への積極開放科目とする。
- ③高等学校教諭一種免許状（情報）あるいは中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得できる教育課程を置く。
- ④繊維製品品質管理士・色彩検定1級資格試験受験にも対応する授業科目を配置する。
- ⑤生活情報通信科学コースでは経済産業省の情報処理技術者試験（基本並びに応用）に準拠したカリキュラムを行い、同試験合格者にはカリキュラムの一部科目において単位取得を認める。

(2) 特色について

- ①1年次では、実世界を論理モデルで記述するための基礎である数学を学ぶ。また、情報倫理など社会と情報の関わりを学ぶ。衣環境学コースでは、具体的な物質の操作である被服学実習を学ぶ。生活情報通信科学コースでは抽象的な数の操作であるプログラミングを学ぶ。
- ②2年次以降専門科目を体系的に学ぶが、特に充実した実験・実習を学ぶ。
- ③衣環境学コースでは、1年間の卒業研究の過程を通し、社会人として必要な能力であるPDCAによる問題解決能力を養う。
- ④生活情報通信科学コースでは3年次後期から研究室に所属し研究を重視する大学院との接続を密にする。同時に創造学と失敗学から、卒業研究で提案する情報システムや衣服操作システムを俯瞰する手法を学ぶ。
- ⑤コースごとの必修単位により卒業する学生の質を保証しつつ、学科必修単位と選択必修単位により衣服と情報を俯瞰しつつ新規な分野で社会に貢献できる女性人材を育成する。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
衣環境学コースでは、必修科目48単位、専門科目の選択科目から28単位以上(このうち、学科共通専門科目のA群、B群からそれぞれ4単位以上)を修得し、124単位以上修得すること。 生活情報通信科学コースでは、必修科目42単位、専門科目の選択科目から32単位以上(このうち、学科共通専門科目のA群、B群からそれぞれ4単位以上)を修得し、124単位以上修得すること。 #はコース必修科目 (履修科目の登録の上限：年間48単位)	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)

生活環境学部 心身健康学科・情報衣環境学科共通 全学共通教養教育科目

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考 専任教員数の内訳を学科名頭文字を付して示している。		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
主 題 科 目	日本国憲法	1・2・3・4前		2		○			1						兼2	オムニバース
	部落史と部落問題	1・2・3・4前		2		○									兼2	オムニバース
	人権と差別	1・2・3・4後		2		○									兼6	オムニバース
	いのちと健康	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	生活と健康	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	ジェンダー論入門	1・2・3・4前		2		○									兼4	オムニバース
	女性と社会	1・2・3・4後		2		○									兼5	オムニバース 心1
	共生科学	1・2・3・4前		2		○									兼5	オムニバース
	地域のくらしとグローバル社会	1・2・3・4後		2		○									兼5	オムニバース
	大学生活入門	1前		2		○									兼12	オムニバース
	異文化理解と国際協力	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	異文化理解と平和構築	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	現代社会と職業	1・2・3・4前		2		○									兼1	
小計(13科目)		-	0	26	0	-			1	0	0	0	0	兼41	心1	
基 礎 科 目 群	一般基礎英語	1前・後		1				○							兼12	
	実践基礎英語	1前・後		1				○							兼14	
	エクステンシブリーディング(英語)	2前・後		1				○							兼11	
	オラルコミュニケーション(英語)	2前・後		1				○							兼12	
	イングリッシュ・ワークショップ(中級)I	2・3・4前		1				○						兼1	隔年	
	イングリッシュ・ワークショップ(中級)II	2・3・4後		1				○						兼1	隔年	
	イングリッシュ・ワークショップ(上級)I	2・3・4前		1				○						兼1	隔年	
	イングリッシュ・ワークショップ(上級)II	2・3・4後		1				○						兼1	隔年	
	ドイツ語 I A	1前・後		1				○							兼6	
	ドイツ語 I B	1前・後		1				○							兼6	
	ドイツ語 II A	2・3・4前		1				○							兼3	
	ドイツ語 II B	2・3・4後		1				○							兼2	
	ドイツ語 III	2・3・4前		1				○							兼1	
	ドイツ語 IV	2・3・4後		1				○							兼1	
	フランス語 I A	1前・後		1				○							兼4	
	フランス語 I B	1前・後		1				○							兼5	
	フランス語 II A	2・3・4前		1				○							兼3	
	フランス語 II B	2・3・4後		1				○							兼3	
	フランス語 III	2・3・4前		1				○							兼1	
	フランス語 IV	2・3・4後		1				○							兼1	
	中国語 I	1前・後		1				○							兼5	
	中国語 II	2・3・4前・後		1				○							兼5	
	中国語 III	2・3・4前		1				○							兼1	
	中国語 IV	2・3・4後		1				○							兼1	
	中国語検定初級 I	1・2・3・4前		1				○							兼1	
	中国語検定初級 II	1・2・3・4後		1				○							兼1	
	中国語検定中級 I	2・3・4前		1				○							兼1	
	中国語検定中級 II	2・3・4後		1				○							兼1	
	ロシア語初級 I	2・3・4前		1				○							兼1	
	ロシア語初級 II	2・3・4後		1				○							兼1	
ロシア語中級 I	2・3・4前		1				○							兼1		
ロシア語中級 II	2・3・4後		1				○							兼1		
韓国語初級 I	1・2・3・4前		1				○							兼1		
韓国語初級 II	1・2・3・4後		1				○							兼1		
韓国語中級 I	1・2・3・4前		1				○							兼1		
韓国語中級 II	1・2・3・4後		1				○							兼1		
小計(36科目)		-	0	36	0	-			0	0	0	0	0	兼51	-	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考 専任教員数の内訳を学科名頭文字を付して示している。			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目群	日本語ⅠA	1・2・3・4前		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅠB	1・2・3・4後		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅠC	1・2・3・4前		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅠD	1・2・3・4後		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅡA	1・2・3・4前		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅡB	1・2・3・4後		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅡC	1・2・3・4前		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅡD	1・2・3・4後		1				○							兼1	※講義	
	小計(8科目)	-		8			-		0	0	0	0	0	0	兼3	-	
	保健体育科目群	健康運動実習Ⅰ	1前	1					○	3	2			1		兼6	心6
		健康運動実習Ⅱ	1後	1					○	3	2			1		兼6	心6
		スポーツ実習A	2・3・4前・後		1				○	1						兼3	心1
		スポーツ実習B	2・3・4前・後		1				○							兼1	
		スポーツ実習C	2・3・4前・後		1				○	2	1					兼3	心3
小計(5科目)	-	2	3	0		-		3	3	0	1	0		兼9	心7		
情報処理科目群	情報処理入門Ⅰ	1前		2		○			1	1					兼6	※実習 情2	
	情報処理入門Ⅱ	1・2・3・4後		2		○									兼2	※実習	
小計(2科目)	-	0	4	0		-		1	1	0	0	0		兼8	情2		
教養科目群	哲学の歴史	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	哲学の基本問題	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	現代の倫理	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	現代倫理学の課題	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	現代宗教学への招待	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	現代世界と宗教の意味	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	心の科学への招待	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	心の科学の現在	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	歴史学	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	シルクロードと古代日本	1・2・3・4後		2		○									兼3	オムニバス	
	日本の言語と文学	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	日本の文学を読む	1・2・3・4後		2		○	○								兼1		
	ことばのしくみ	1・2・3・4後		2		○									兼1	隔年	
	ことばと文化	1・2・3・4前		2		○									兼1	隔年	
	西洋の言語と文化	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	日本の美と芸術	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	西洋の美と芸術	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	音楽概説	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	暮らしの中の地理学	1・2・3・4前		2		○									兼1	隔年	
	文化と民族	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	地域の人と環境	1・2・3・4後		2		○									兼1	隔年	
	日本とヨーロッパ	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	社会学入門	1・2・3・4前		2		○									兼2	オムニバス	
	現代社会論	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	社会心理学入門	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	法律学概論	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	政治学	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	国際関係論	1・2・3・4後		2		○									兼1		
基礎経済学	1・2・3・4後		2		○									兼1			
暮らしの経済学	1・2・3・4後		2		○									兼1	隔年		
統計入門	1・2・3・4前		2		○									兼1			
統計	1・2・3・4後		2		○									兼1			
数学入門	1・2・3・4前		2		○									兼1			
数学アラカルト	1・2・3・4後		2		○									兼1			
物理学の考え方	2・3・4前		2		○									兼1			
生活の中の物理学	1・2・3・4後		2		○									兼1			
化学の常識	1・2・3・4後		2		○									兼1			
化学の世界	1・2前		2		○									兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考 専任教員数の内訳を学科名頭文字を付して示している。		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目群	環境と生物	1・2・3・4後		2		○			1						兼1	心1
	細胞と生命	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	ジェンダー生理学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	生体機能と性差	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	地学入門	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	地球環境	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	科学史入門	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	科学史	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	生活と色彩	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	色彩心理	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	自然環境の地理学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	健康・スポーツ科学	1・2・3・4後		2		○				1					兼1	
	生活と科学	1・2・3・4後		2		○				3					兼7	
	普遍性の生物学	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	多様性の生物学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
生命・運動・健康	1・2・3・4後		2		○				2				兼4			
小計 (54科目)	—	0	108	0	—			5	2	0	0	0	兼54			
合計(118科目)		—	2	185	0	—		8	5	0	1	0	兼158			

教養教育科目履修方法

- ・ 基礎科目群から18単位及び教養科目群から12単位、合計30単位を必修とする。
- ・ 基礎科目群必修18単位の内、外国語科目12単位及び保健体育科目2単位を必修とする。
- ・ 外国語科目必修12単位は、1の外国語で8単位、他の外国語で4単位の修得を要する。この内、1の外国語8単位は、英語、ドイツ語及びフランス語の内から選択するものとする。
- ・ 「中国語検定」と冠した授業科目の単位は、外国語科目必修12単位には含まない。
- ・ 保健体育科目必修2単位は、健康運動実習Ⅰ及びⅡ(各1単位)とする。
- ・ 日本語科目は、外国人留学生及び外国において相当期間中等教育を受けた者の内必要と認められたものが履修することができる。
- ・ 日本語科目の単位を修得した場合は、4単位を上限としてこれを外国語科目の単位に充てることができる。
- ・ 編入学生は、健康運動実習Ⅰ又はⅡに代えてスポーツ実習の単位を充てることができる。
- ・ 基礎科目群から必修単位数を超えて修得した単位は、教養科目群の必修単位に充てることができる。

教育課程等の概要(事前伺い)

【既設】生活環境学部 生活健康・衣環境学科

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部 共通 科目	生活環境学原論	1後		2		○									兼1	
	育児学	2前		2		○									兼1	
	児童学	2後		2		○									兼1	
	家庭機械・家庭電気・情報処理	1後		2		○									兼1	
	食物科学概論	1前		2		○									兼10	オムニバス
	調理学実習	1前		1				○							兼3	
	応用調理学実習	1後		1				○							兼3	
	生活健康学概論	1前		2		○			4	2		1				オムニバス 健・必
	衣環境学概論	1後		2		○			1							
	被服学実習Ⅰ	1前		1				○							兼3	
	被服学実習Ⅱ	1後		1				○							兼3	
	ジェンダー文化論	2前		2		○									兼1	
	家族関係論	2前		2		○									兼1	
	生活経営学	2前		2		○									兼1	
	住環境学概論	1前		2		○									兼12	
小計(15科目)	—		0	24	0		—	5	2	0	1	0		兼35	—	
学部 共通 科目	生活健康・衣環境学概論	1後		2		○			1	3						
	卒業研究Ⅰ	4前		6				○	6	4	1	2				※演習
	卒業研究Ⅱ	4後		6				○	6	4	1	2				※演習
	小計(3科目)	—		14	0	0	—	6	4	1	2	0	0		—	
学部 専 門 科 目	食健康論	2前		2		○			1							健・必
	女性健康論	2後		2		○				1						健・必
	環境適応学	3前		2		○			1							健・必
	環境人間工学	2前		2		○				1						健・必
	健康運動学	3前		2		○			1							健・必
	生活保健学	3前		2		○			1							健・必
	精神健康論	2後		2		○									兼1	健・必
	高齢者環境論	3後		2		○					1					
	食環境論	2前		2		○									兼1	
	栄養生理学	2前		2		○			1							
	被服生理学	3前		2		○				1						
	臨床・病態栄養学	2前		2		○									兼1	
	人体機構学	2前		2		○									兼1	
	余暇行動論	2前		2		○									兼1	
	衛生・公衆衛生学	2後		2		○									兼1	
	健康指導論	2後		2		○									兼1	
	生理人類学	2前		2		○									兼1	
	健康トレーニング論	2後		2		○									兼1	
	運動医学論	2前		2		○									兼2	オムニバス
	生活健康学外書講読Ⅰ	4前		2		○			4	2		1				
	生活健康学外書講読Ⅱ	4後		2		○			4	2		1				
	生活健康学演習Ⅰ	3後		2				○	4	2		1				健・必
	生活健康学演習Ⅱ	4前		2				○	4	2		1				健・必
	生活健康学基礎実験	2前		2				○	1							健・必
	栄養学実験	3後		2				○	1				1			健・必
	人体生理学実習	2後		2				○		1			1			健・必
	環境人間工学実習	3前		2				○			1					健・必
	運動生理学実習	3前		2				○	1							健・必
	分子生物学	1前		2		○			1							
	人体生理学Ⅰ	2前		2		○									兼1	
人体生理学Ⅱ	2後		2		○			1								
人体解剖学	2前		2		○									兼1		
ストレスの科学実習	2後		2				○							兼2	健・必	
病態医化学	2後		2				○	1								
健康づくり運動実習	2前		2				○		1							
有酸素運動実習	1集		2				○	1								
小計(36科目)	—		0	72	0		—	4	2	0	1	0		兼15		

教育課程等の概要(事前伺い)

【既設】生活環境学部 生活健康・衣環境学科 全学共通教養教育科目

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
主 題 科 目	日本国憲法	1・2・3・4前		2		○									兼2	オムニバス
	部落史と部落問題	1・2・3・4前		2		○									兼2	オムニバス
	人権と差別	1・2・3・4後		2		○									兼6	オムニバス
	いのちと健康	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	生活と健康	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	ジェンダー論入門	1・2・3・4前		2		○									兼4	オムニバス
	女性と社会	1・2・3・4後		2		○									兼6	オムニバス
	共生科学	1・2・3・4前		2		○									兼5	オムニバス
	地域のくらしとグローバル社会	1・2・3・4後		2		○									兼5	オムニバス
	大学生活入門	1前		2		○									兼12	オムニバス
	異文化理解と国際協力	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	異文化理解と平和構築	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	現代社会と職業	1・2・3・4前		2		○									兼1	
小計(13科目)		-	0	26	0	-			0	0	0	0	0	0	兼42	-
基 礎 科 目 群	一般基礎英語	1前・後		1				○							兼12	
	実践基礎英語	1前・後		1				○							兼14	
	エクステンシブリーディング(英語)	2前・後		1				○							兼11	
	オラルコミュニケーション(英語)	2前・後		1				○							兼12	
	イングリッシュ・ワークショップ(中級)I	2・3・4前		1				○							兼1	隔年
	イングリッシュ・ワークショップ(中級)II	2・3・4後		1				○							兼1	隔年
	イングリッシュ・ワークショップ(上級)I	2・3・4前		1				○							兼1	隔年
	イングリッシュ・ワークショップ(上級)II	2・3・4後		1				○							兼1	隔年
	ドイツ語IA	1前・後		1				○							兼6	
	ドイツ語IB	1前・後		1				○							兼6	
	ドイツ語IIA	2・3・4前		1				○							兼3	
	ドイツ語IIB	2・3・4後		1				○							兼2	
	ドイツ語III	2・3・4前		1				○							兼1	
	ドイツ語IV	2・3・4後		1				○							兼1	
	フランス語IA	1前・後		1				○							兼4	
	フランス語IB	1前・後		1				○							兼5	
	フランス語IIA	2・3・4前		1				○							兼3	
	フランス語IIB	2・3・4後		1				○							兼3	
	フランス語III	2・3・4前		1				○							兼1	
	フランス語IV	2・3・4後		1				○							兼1	
	中国語I	1前・後		1				○							兼5	
	中国語II	2・3・4前・後		1				○							兼5	
	中国語III	2・3・4前		1				○							兼1	
	中国語IV	2・3・4後		1				○							兼1	
	中国語検定初級I	1・2・3・4前		1				○							兼1	
	中国語検定初級II	1・2・3・4後		1				○							兼1	
	中国語検定中級I	2・3・4前		1				○							兼1	
	中国語検定中級II	2・3・4後		1				○							兼1	
	ロシア語初級I	2・3・4前		1				○							兼1	
	ロシア語初級II	2・3・4後		1				○							兼1	
ロシア語中級I	2・3・4前		1				○							兼1		
ロシア語中級II	2・3・4後		1				○							兼1		
韓国語初級I	1・2・3・4前		1				○							兼1		
韓国語初級II	1・2・3・4後		1				○							兼1		
韓国語中級I	1・2・3・4前		1				○							兼1		
韓国語中級II	1・2・3・4後		1				○							兼1		
小計(36科目)		-	0	36	0	-			0	0	0	0	0	0	兼51	-

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目群	日本語ⅠA	1・2・3・4前		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅠB	1・2・3・4後		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅠC	1・2・3・4前		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅠD	1・2・3・4後		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅡA	1・2・3・4前		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅡB	1・2・3・4後		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅡC	1・2・3・4前		1				○							兼1	※講義	
	日本語ⅡD	1・2・3・4後		1				○							兼1	※講義	
	小計(8科目)	-		8			-			0	0	0	0	0	兼3	-	
	保健体育科目群	健康運動実習Ⅰ	1前	1					○							兼14	
		健康運動実習Ⅱ	1後	1					○							兼14	
		スポーツ実習A	2・3・4前・後		1				○							兼4	
		スポーツ実習B	2・3・4前・後		1				○							兼1	
		スポーツ実習C	2・3・4前・後		1				○							兼6	
小計(5科目)	-	2	3	0		-			0	0	0	0	0	兼16	-		
情報処理科目群	情報処理入門Ⅰ	1前		2		○									兼8	※実習	
	情報処理入門Ⅱ	1・2・3・4後		2		○									兼2	※実習	
	小計(2科目)	-	0	4	0		-			0	0	0	0	0	兼10	-	
教養科目群	哲学の歴史	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	哲学の基本問題	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	現代の倫理	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	現代倫理学の課題	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	現代宗教学への招待	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	現代世界と宗教の意味	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	心の科学への招待	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	心の科学の現在	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	歴史学	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	シルクロードと古代日本	1・2・3・4後		2		○									兼3	オムニバス	
	日本の言語と文学	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	日本の文学を読む	1・2・3・4後		2		○	○								兼1		
	ことばのしくみ	1・2・3・4後		2		○									兼1	隔年	
	ことばと文化	1・2・3・4前		2		○									兼1	隔年	
	西洋の言語と文化	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	日本の美と芸術	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	西洋の美と芸術	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	音楽概説	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	暮らしの中の地理学	1・2・3・4前		2		○									兼1	隔年	
	文化と民族	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	地域の人と環境	1・2・3・4後		2		○									兼1	隔年	
	日本とヨーロッパ	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	社会学入門	1・2・3・4前		2		○									兼2	オムニバス	
	現代社会論	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	社会心理学入門	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	法学概説	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	政治学	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	国際関係論	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	基礎経済学	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	暮らしの経済学	1・2・3・4後		2		○									兼1	隔年	
	統計入門	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	統計	1・2・3・4後		2		○									兼1		
数学入門	1・2・3・4前		2		○									兼1			
数学アラカルト	1・2・3・4後		2		○									兼1			
物理学の考え方	2・3・4前		2		○									兼1			
生活の中の物理学	1・2・3・4後		2		○									兼1			
化学の常識	1・2・3・4後		2		○									兼1			
化学の世界	1・2前		2		○									兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養科目群	環境と生物	1・2・3・4後		2		○			1						兼1	-	
	細胞と生命	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	ジェンダー生理学	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	生体機能と性差	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	地学入門	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	地球環境	1・2・3・4後		2		○								兼1			
	科学史入門	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年		
	科学史	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年		
	生活と色彩	1・2・3・4後		2		○								兼1			
	色彩心理	1・2・3・4後		2		○								兼1			
	自然環境の地理学	1・2・3・4後		2		○								兼1			
	健康・スポーツ科学	1・2・3・4後		2		○								兼1			
	生活と科学	1・2・3・4後		2		○			3					兼7			
	普遍性の生物学	1・2・3・4前		2		○									兼2		オムニバス
	多様性の生物学	1・2・3・4後		2		○									兼1		
生命・運動・健康	1・2・3・4後		2		○				1				兼5	オムニバス			
小計 (54科目)		—	0	108	0	—			4	1	0	0	0	兼56	—		
合計(118科目)		—	2	185	0	—			4	1	0	0	0	兼167	—		